

平成28年度 第1回 国家資格 キャリアコンサルタント試験 実技（論述）試験 出題の内容・傾向分析と対策

キャリアコンサルタント試験の実技試験（論述試験と面接試験）は、2つの登録試験機関がそれぞれ、独自のものとして実施します。問題形式と設問を比較すると両者の特徴が浮かび上がってきますので、そこから合格に向けた対策を考えることが出来ます。

キャリア・コンサルティング協議会

出題形式：記述式回答（事例記録を読み、設問に解答する）

問題数：1ケース

面接試験の「評価区分」：傾聴、展開、自己評価

【問題の特徴】

- ①「ケース」として「逐語記録」ではなく、「最初の発言の概要」が示されている。
- ②問題文で「関係構築がなされた前提」とあり、「関係構築」についての質問はない。
- ③3つの設問について、小問があり、解答すべきことが詳細に指示されている。

【解答のポイント】

設問1	各小問において「どのような問いかけ」をするか1つ挙げる ・具体的な言葉で書くのか、「技法」を述べるのかで迷うところ →キャリアコンサルタントの「常識」の範囲で解答することが可能
設問2	自己理解と仕事・職業理解について、「展開」の内容を5つ挙げる ・5つの優先順位をつける必要がないので、できる限り考え出し、5つを選択する →自己理解と仕事・職業理解の一般的な知識があれば解答することが可能
設問3	キャリアコンサルタントが「してはならないこと」を挙げる ・キャリアコンサルティングの「進め方の問題」と「倫理の問題」とが考えられる →「問題あるキャリアコンサルタント」の態様を把握しておけば解答が可能

日本キャリア開発協会

出題形式：記述式（逐語記録を読み、設問に解答する）

問題数：1～2問

面接試験の「評価区分」：主訴・問題の把握、具体的展開、傾聴

【問題の特徴】

- ①逐語記録からキャリアコンサルタントの問題を把握し回答するオーソドックスな設問形態
- ②「問題あるキャリアコンサルタント」の典型的な事例が出題されている
- ③長文での解答が求められているが、キーワードが示されていて、解答の方向が見えやすい

【解答のポイント】

設問1	キャリアコンサルタントの各応答に対する評価とその理由を挙げる ・相応しいかどうかの判断は付くものの、その「理由」の記述に悩むところ →キャリアコンサルタントの技法についての精確な理解が求められる
設問2	2つの逐語の「展開」についての違いを、キーワードを用いた文章で記述する ・文章の構成と「支援の基本スタンス」の用い方に悩むところ →プロセスの理解だけでなく、わかりやすい文章を構成する力量も求められる